

# 令和7年度 伊那市立春富中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
理想をめざし、 たくましく 実践する人になろう	すべての子どもがもてる力を発揮し、「学び合いの授業」を軸とした授業づくりを通して、思考力・判断力・表現力を高めしていく。
	今年度の重点目標
	(1) 授業を学校づくりの根幹に考える ○学び合いを軸とした授業づくり ○授業のユニバーサルデザイン化 ○教員のたゆまぬ研鑽
	(2) インクルーシブな教育環境づくり ○互いの違いや良さを認め合える集団づくり ○「きく」ことから始まる生活指導 ○命の教育に結びつくキャリア教育
	(3) カリキュラムをデザインする ○教科横断的な視点を生かしたカリキュラム ○DX化 ○地域との連携

総合評価		
学校関係者の皆様から 昨年度、今年度と生徒への関わりについて全職員で取り組んで来ている成果が、生徒が生き生きと楽しく学校生活を送れていることにつながっていると思います。 引き続きの取り組みをお願いしたいと思います。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 学校アンケートにおける「学習内容の理解」に関する質問に対する肯定回答は、生徒93%、保護者66%であった。生徒は昨年度並み、保護者は前年比+9ポイントとなり、学習の理解が家庭においても実感されるようになってきている。	B b	○「基礎基本の定着と対話による協働的な学びの両立」「知識・技能を定着させるための家庭学習(自学を含む)のあり方」に関して、次年度の研究の柱として学習指導に取り組む。
(2) 上田市より武井美千代さんを招き、いのちの日講演会を行った。いじめによって命を絶ってしまった青年の話聞き、生徒の多くが人権や命の大切さやいじめの理不尽さなどについて考え、2学期以降はいじめにつながる可能性のある行為が減った。	B b	○年々変化や多様性が求められる中、互いの良さを認め合える感受性を育てるとともに、許されることと許されないことの分別をつけ、差別やいじめを許さない気持ちを育成するための学習や取り組みを継続していく。
(3) 総合的な学習における探究的な学びが継続して行われるようになり、地域の自然や環境、食文化、子育て問題、地域活性化に向けたイベント参加など多岐にわたり学習し、徐々にその成果を発信できるようになってきている。	B b	○生徒が自ら抱いた興味関心について文献やインターネットでの調べ学習にとどめることなく、地域に出向いて直接ふれたり、地域住民の声を聞いたりする機会を大切にしていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	
教育活動	教育課程	○「生きる力」の育成につながる教育実践	○すべての生徒にとって居場所があり、存在感・信頼感のもてる学校づくり・学級づくりに努めたか。	
		○特色ある教育課程の展開	○「ICTを活用する」から「学習の場面に応じて生徒が主体的にICTを活用し、協働的で対話的な学び合い」となる取り組みが展開できたか。(教科、道特、特別活動、総合的な学習、生徒会等)	
	学習指導	○対話的活動を中心にして、学び合いの中から自他と向き合い、わかった、できた喜びのもてる授業	○基礎基本の定着を図るとともに、「わかるようになった」「できるようになった」という実感がもてるような授業ができたか。	
		○相手に伝わる表現力の育成	○仲間の声に耳を傾け、対話を通して自己の考えをまとめ、表現したり発信したりできるようにするために、話し合い活動や伝え合う場面を積極的に授業に取り入れたか。	
	部活動	○心身の健全な発達を図る部活動の実施	○適正な練習内容・練習時間での活動を実施し、体力の向上や技能の向上が図れたか。	
		○協調性・社会性を醸成する部活動の実施	○集団の一員としてルールを守り、お互い協力し合いながら目標に向かって努力することができたか。	
	生活指導	○全ての生徒にとって居場所があり、存在感・信頼感のもてる学校・学級づくりに努めたか。	○問題行動・不登校への予防的対応に心がけ、安心できる学校・学級づくりに努力したか。 ○生徒理解に基づいた個々の生徒への支援ができたか。	
		○凡事の徹底	○挨拶、清掃、時間等、日常生活での当たり前のことにきちんと取り組めたか。	
	学校運営	安全	○安全意識の向上	○安全教育を通して、安全な通学への心構えや、学校生活に於ける安全意識を向上させることができたか。
			○安全の確保	○施設および設備の安全点検を実施し、事故防止に努めたか。 ○通学路および登下校時の安全確認を定期的実施したか。
		地域連携	○学年学級通信、学校だよりを通しての生徒理解	○学級通信や学校だよりによって、積極的に学級や学校での生徒の活動の様子を知らせたか。 ○学校ホームページなどを活用して積極的に情報発信を行ったか。
		○地区との交流 ○地域の人材の活用	○地区へ出向いたり、地区の人を招いたりして、交流活動を積極的に行ったか。 ○地域の人材を積極的に活用した授業・学習支援を実施したか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒は94%で、前年度を3ポイント上回った。保護者も86%で、前年を11ポイント上回った。多くの生徒が「学校が楽しい」と感じており、家庭でもそれを実感できる結果となった。	A a	○年間行事の見直し、生徒にとって生活の負担が大きくなる月や曜日における授業時数の配置、実効性のある相談月間の実施など、生徒の実態に応じた学校運営の工夫を積極的に取り入れていく。
○海外からの体験入学生受け入れ、リモートによるフィンランドの中学生との交流、台湾の訪日中学生交流など、学習や交流活動がグローバル化する中、ICT機器を積極的に用いてコミュニケーションを図る場面が多くみられた。	B b	○教科学習にとらわれず、総合的な学習の時間や生徒会活動等を通して、自分たちから進んで広い世界とつながろうとする意欲が高められる取り組みを展開する。
○「学習内容がわかった・できた」と実感を持っている生徒が93%で前年度並みであった。対話活動についても徐々にその数値を上げつつあり、保護者の実感としても向上がうかがえる。	B b	○全国学力・学習状況調査、外部の標準学力調査、校内の定期テストから生徒の学力の定着度を分析し、対話による学び合いの授業づくりとICTを活用した個別最適な学びについて実践を増やしていく。
○学校アンケートにおける「授業中の対話」に関して、肯定的な回答をした生徒は約67%で前年を1ポイント上回った。徐々に授業における対話活動が進んでいることがうかがえるが、有効な対話方法について、職員は課題があると感じている。	B b	○授業内での生徒同士の話し合い活動の場面を意図的に増やししながら、生徒の主体的・対話的な深い学びによる思考力・表現力・判断力の向上を目指す。
○学校評価アンケートでは肯定的回答が生徒93%で、前年度と同等の評価を得た。徐々に地域展開に向けた取り組みが進む団体もある。	A a	○部活動指導員、外部指導者およびクラブチームと連携し、生徒の発達段階に応じた適正な活動内容の検討と地域展開に向けた取り組みを進める。
○部活動や地域クラブ活動を行っている生徒保護者の87%が、活動に対して意欲的に取り組んでいると考えている。	B b	○今年度同様、部活動運営委員会を開催し、各部の保護者との情報交換をしながら、地域移行も含めた部活動の在り方について検討していく。
○保護者の70%が「学校は、いじめや反社会的行動に対して適切に指導を行っている」と回答しており、前年を11ポイント上回った。	B b	○職員と生徒とのより良い関係づくりのために、定期的な生徒相談の時間の設置、生徒が気軽に相談できる体制の整備を継続していく。 ○いじめが疑われる事案に対しては、速やかに委員会を設置して学校としての対応を行う。
○挨拶は、校内だけでなく地域から高い評価をいただいている。アンケートの肯定的回答の割合は生徒89%、保護者86%(+8ポイント)であった。	A a	○挨拶は肯定的回答90%程度の維持を目指し、生徒の良さを認める声かけをしながら、地域に信頼される学校づくりに取り組む。 ○生徒会ともタイアップして、生徒の主体的な実践を推進する。
○生徒への注意喚起および全家庭へも通知して通学の安全について考える機会を設けるとともに、地域や行政も巻き込んで通学路の安全対策について検討する場を設けることができた。	B b	○さらに地域との連携を密にしながら、早期の安全対策を具現化させ、より安全な登下校の実現を図る。
○管理場所、遊具、体育設備の点検を毎月実施し、安全な学習環境維持に努めた。 ○猛暑対策として生徒玄関前へミスとシャワーを設置するなどの対策を行った。	A a	○施設・管理について、引き続き毎月点検を行い、安全管理の徹底を図る。 ○年々変化する気候に対して柔軟な対応を継続していく。
○学年通信や学校だよりを定期的に発行し、地域回覧するとともにメールや学校HPによる配信を行った。保護者アンケートでは97%が肯定的な回答であった。	A a	○今後も、学年通信、学校だよりを紙ベースではなく電子化にして、メール等を通して確実に保護者に発信していく。 ○保護者に、学校HP閲覧を勧められるよう、学校だよりで案内していく。
○昨年度「もっと中学校の活動を見たい」という要望をいただき、コミュニティスクールおよび文化祭に合わせて民生児童委員へも案内通知を出して、学校生活における生徒の姿を見ていただく機会を設けた。	B b	○地域との交流、連携は、本校の特色ある教育活動の一つであるので、地域との交流活動や地域の教育力の活用および新規発掘を継続する。 ○探求的な学びによる生徒が地域に出向く機会を増やしていく。

	研 修	○校内研修の実施	○授業改善のために、公開授業や教科内に於ける教科研修を実施したか。	○初任者の授業および上伊那国語研究委員会を校内公開授業とし、全職員が研修する機会を設けた。	B	○「対話活動」「ICT活用」「授業の振り返り」を研究の中心に据え、研修を継続する。
		○校外研修への参加	○自己の授業力の向上や生徒指導力の向上のために、校外研修に参加したか。		○各種研修会や授業研究会に参加し、授業力の向上に努めた。 ○総合教育センター主催の希望研修などに自ら申し込んで参加する職員が増えつつある。	b
					B	○職員が研修を積むために学校を離れる機会が取りやすくなるよう、校務調整および日程調整等を積極的に行い、できるだけ校外での研修に参加できる機会を確保するよう努める。
					b	